2010~2011年度 IM第2組報告

IM実行委員会
副委員長　稲邑　清也
（千里RC）

テ　ー　マ：コミュニティの崩壊と再生
ホ　ス　ト：千里RC（会長神前俊彦、実行委員長西田泰晤）
日　　時：2011年2月5日　14:00～16:30
場　　所：ホテル阪急エキスポパーク
参加クラブ：茨木RC、茨木東RC、茨木西RC、千里RC、千里メイプルRC、摂津RC、吹田RC、吹田江坂RC、吹田西RC、高槻RC、高槻西RC、高槻東RC
登 録 者 数：463名
出 席 者 数：219名（来賓、RC家族を含む）

今回のIMは掲題のテーマで大阪大学総長鷲田清一氏（千里RC会員）から御講演を頂きました。

氏は家族、近親者、村、街などの相互の助け合いで成り立っていたコミュニティから、現代の機能別に分担されたプロフェッショナルからなるコミュニティへの変化について指摘され、我々がそれによって得られた利便性、高能率性、高機能性、プライバシーの確保に引換え、失ったものは何かを反省させられました。出産、育児、医療、教育、宗教、職業生活、冠婚葬祭に至るまで従来のコミュニティではみんなで支えあって生きてきたのが、全てが高度の経済と商業活動に組み込まれ、技術や専門性に依存する社会になりつつあるとの指摘をされました。

氏は高度な内容を判り易く話されました。御幼少の頃、赤と緑の模様のついた買物篭を持たされ近くの店まで買い物に行き、店のおっチャンから「ボンは偉いな」と褒められてもちっとも嬉しくなく、皆がすみずみまで知りあっている京都の下町から抜け出したい一心で勉強したとのくだりや、ガールフレンドとの電話を家族に立ち聞きされたくない一心で小遣い銭をはたいてウォーキートーキーを買って失敗した話などです。昔は欲しくてたまらなかった携帯電話は今は当たり前になっています。氏も我々と同じように昔のコミュニティから脱し、利便性とプライバシー確保に到達したわけです。

この機能性尊重の現代のコミュニティでも「家庭崩壊」を防ぎ、「無縁社会」とならないよう、また「孤独死」などに至らないようにはどうすればよいのかを改めて考えさせられたと思います。更にロータリークラブの意義についても認識を促されました。我々は新しいコミュニティの再生に役立つ事を願って活動せずにはいられません。

閉会式では次年度のIMのホストクラブ会長の茨木東RCの中田有紀氏から挨拶があり、再会を期して散会しました。